


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成 31 年 2 月 14 日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第 4 号	質問議員	3 番	井上 正文 
件 名	山北町の人口減少対策について			
要 旨				
<p>山北町議会総務環境常任委員会は、この 4 年間、人口減少に歯止めをかける取り組みを中心に調査研究を重ねてきた。それは、平成 26 年に日本創成会議・人口減少問題検討分科会が発表した、県内の 9 市町村の中でも消滅の可能性が高いと言わざるを得ないと指摘された松田、山北、箱根、真鶴、清川では当然危機意識を抱かざるを得なかったからである。</p> <p>このような状況を踏まえ、後半 2 年間更に総務環境常任委員会で人口減少につながる課題を抽出した結果、①御殿場線 IC カード②働き場所③子育て環境④秦野峠林道⑤道志村トンネル⑥つぶらの公園整備⑦玄倉公共施設⑧丹沢荘の活用⑨三保ダム広場の活用⑩町内交通の再構築⑪買物弱者⑫土地利用⑬山砂利跡地利用⑭山北スマート IC⑮鳥獣被害対策⑯林業を生かした町づくり⑰防災減災等の取り組みの重要性を各委員から報告された。議会報告会等で町民の皆様の声を聞き、1 交通の便、2 働き場所、3 子育て、4 未婚晩婚、5 鳥獣被害の 5 つの目標に絞り込み、それと連動させるように県外視察を設定した。身延町の視察では、町内交通機関の総合的運用がなされ、町民の利便性を中心に考えられた運行が、かゆいところに手が届くようだった。早川町の視察では、やまなしジビエ認証第 1 号と早川町長の「鳥獣被害は公害だ、人任せにはしないで町が実施する」と述べられた力強さが印象に残った。また、土地利用の米倉山のメガソーラーシステムの視察は、未来の街づくりを想像させるものだった。そして、本年 2 月の、御殿場アウトレットと小山町内陸フロンティア視察では、「働き手がない」との情報を得たことであった。</p> <p>第 5 次総合計画の後期基本計画で、町の将来像をつくりあげているのは承知していますが、御殿場アウトレットの情報では、100 店舗の増設と</p>				

宿泊施設で1,000人以上の働き手が必要で、三島方面に向かっているが、慢性的な働き手不足である。小山町の内陸フロンティアが満杯になると2,300人の働き手が必要になるということである。このように、県は違うが、山北町の近隣の市町であり距離的にも近いなど好条件がそろっている。そこで質問をする。

御殿場市、小山町にある働き口についての考え方を問う。

- 1) 交通の便が悪い、近くに働き場所がないという理由で町外に流出してしまう若者をとどめるためにも、働き口を求める誘導策の考えは。
- 2) 山北町はこれまでの仕事先が東京方面だが、距離的にも時間的にも近い西方面へのシフトについての考え方は。
- 3) 小山町に出向職員を向ける考えは。